

第20回定期演奏会 大阪文化祭参加

「運命・自由そして神」



里井 宏次&

The TARO Singers

アカペラ室内混声合唱団

2013.6.8
いずみホール

■ 指 揮
里井 宏次

■ 合 唱
The TARO Singers

里井 宏次&ザ・タロー・シンガーズ
第20回定期演奏会 「運命・自由そして神」

大阪文化祭参加

2013年6月8日(土)
いずみホール

■後援／大阪音楽大学・大阪音楽大学同窓会(幸楽会)
いずみホール(財団法人住友生命社会福祉事業団)

JCD 日本合唱指揮者協会

■マネジメント／大阪アーティスト協会

Program

H. Howells

H.ハウエルズ

Take him, Earth, Cherishing

地よ、慈しみめて、この人を納め給え

W. Mathias

W.マサイアス

Rex Glorïae

栄光の王

Laetentur Caeli

天は喜ぶがいい

Victimae Paschali

復活祭のいけにえに

O Nate Lux

光から生まれた光

O Rex Glorïae

栄光の王よ

F. Martin

F.マルタン

Songs of Ariel

妖精エアリエルの歌

Come unto these yellow sands

おいで 黄色い砂浜へ

Full fathom five thy father lies

五尋の海底に

Before you can say "come and go"

「さあ行け」と言われる前に

You are three men of sin, whom Destiny

お前たち三人は罪人だ

Where the bee sucks, there ssuck

蜜蜂が吸う蜜を吸い

※

R. Vaughan Williams

R.ヴォーン・ウィリアムズ

Three Shakespeare Songs

三つのシャークスピアの歌

Full fathom five thy fathsr lies

五尋の海底に

The Claud_Capp'd Towers

雲をいただく塔

Over hill, over dale

丘を越え、谷を越え

F. Poulenc

F.プーランク

Cantate Figure humaine

カンタータ 《人間の顔》

De tous les printemps du monde...

この世のあらゆる春の中で...

En chantant les servantes s'élancent...

歌いながら修道士達は駆け出す

Aussi bas que le silence...

死者の沈黙のようにひっそりと

Toi ma patiente...

きみ 僕の忍耐強い人

Rianti du ciel et des planètes...

空と星を眺めて笑うのは

Le jour m'étonne et la nuit me fait peur...

昼は僕を驚かせ、夜は僕を怖がらせる

La menace sous le ciel rouge...

赤い空の下で脅威は

Libertè

自由

Program Note

曲目解説

目に鮮やかな新緑が深々とした緑に変わってきました。恵みの雨の季節です。

太陽の光がもたらす生命力のイメージを喚起させるのに対し、雨は、慈しみの雨とか悲しみの雨、涙雨等々、さまざまな形容をもって語られます。しかしながら、いずれにせよ最終的にそれらは、多くの場合自然、あるいは人の心にとって恵みの雨となるのではないのでしょうか。いささか鬱陶しい季節ではあるものの、雨は陽光以上に私たちの心に深い陰影を与えますし、この時期の雨がなければ、秋の豊かな自然の果実も得られないのですから。

音楽はこの雨に似ているような気がします。少し難しい曲でもその一粒一粒の音のつながりはいつか私たちの心の糧になるに違いありません。

今日もさまざまな音の雨粒がわたしたちの頭上に舞い降りてき、私たちの心を潤わしてくれます。

開幕の曲は、イギリス20世紀の重要な作曲家H.ハウエルズ(1892-1983)の《地よ、慈しみもてこの人を納め給え》。1964年の曲で、前年凶弾に倒れた、アメリカ大統領ケネディの追悼礼拝のために書かれたモテットです。

テキストは、4世紀の詩人プルデンティウスの詩をヘレン・ウォッデルが訳したものだ。作曲者はその詩に、祈りに始まり、祈りに終わる流れの中、怒り、叫びなどがない交ぜになった音楽を付しました。きわめてシリアスな響きに彩られた音楽ですが、ところどころに聞こえる黒人霊歌風のメロディはアメリカの大統領ということを意識しているからかもしれません。

次の《栄光の王》はウィリアム・マサイアスの作品。マティアスとも表記されているこの作曲家は1934年にウェールズで生まれ、1992年に亡くなりました。

彼は故郷を愛し、北ウェールズ音楽祭を立ち上げ、音楽監督として活躍しました。

オーケストラ曲、室内楽曲など多数の作品を残していますが、ラテン語による伝統的な詩による聖歌も多く、この《栄光の王》は、作詩者は不明ながら、そのひとつ。1981年の作品です。中世の時代の響きが4曲を通して聴こえます。

ここで、シェイクスピアに関係する曲が2曲並びます。

周知のように、《妖精エアリエルの歌》のエアリエルは<嵐 テンペスト>に出てくる妖精。地位を追われて娘と孤島に暮らすプロスペローに魔法の力を与えられ、敵の船を難破させたりします。

スイス生まれの作曲家フランク・マルタン(1890-1974)はこの物語を素材に5つの歌を作りました。

た。1950年に書かれた合唱曲で、ぎりぎりのところで抑制された筆致の向こうに豊かなドラマが浮かび上がります。

シェイクスピアにちなむ作品のもう一つのはイギリスのヴォーン・ウィリアムズ(1872-1958)の《3つのシェイクスピアの歌》。

この作曲家はラヴェルのもとで研鑽を積んだりしながらも、19世紀末に生まれたということもあってか、自国の歴史や風土を振り返ることに力を入れ、そこに自らの創作の原点を置きました。当然イギリスの黄金期エリザベス朝の音楽も深く研究し、それらを基にした平易な音楽を多く残しました。そのエリザベス朝に活躍したのがシェイクスピア。

「1.わだつみの五尋の海底に」と「2.雲をいただく塔」は<テンペスト>。「3.丘を越え、谷を超え」は<真夏の夜の夢>から歌詞がとられています。晩年の1951年に書かれただけあって、親しみやすい語法の内に諦観からくるような軽味と透明な深みが顔をのぞかせます。

閉幕は、フランスの作曲家F.プーランク(1899-1963)の音楽が演奏されます。

近年、20世紀を代表する作曲家として、はたまた宗教音楽作曲家としてきわめて高く評価されつつあるプーランクは、優れたピアニストでもあったものの、なぜかピアノ曲よりも声楽曲にすぐれたものを多く残しており、《カンタータ「人間の顔」》はその代表作。彼がその詩の多くを歌曲とした詩人エリュアールが1943年に書いた詩によるもので、ピカソに献呈されました。

1943年と言えば、フランスが第二次大戦中の抗ナチス運動の直中にあった時期。エリュアールの詩は戦争への怒り等、その状況を痛切に反映しており、それをプーランクの音楽が繊細、鮮烈、さらに強靱な音使いで掬いとっています。彼らの、そして人々の望んでいたのはなによりも「自由」。終曲は全体の三分の一を占め、最後に「リベルテ!」と感動的に叫ぶのです。ピカソに献呈されたのは、まさに同じ精神を持つ者としてなのでしょう。

今宵のザ・タロー・シンガーズの演奏曲目はこれまで何度か取り上げられたものもあり、それだけに熟成した音楽を聴かせてもらえるに違いありません。楽しみです。

Profile

1994年に里井宏次のもとに発足したザ・タロー・シンガーズは'95年より演奏活動を始める。第4回定期演奏会で取り上げた、ロシアニの「小莊厳ミサ曲」を契機にしてア・カペラ合唱曲に取り組み、いまでは日本では数少ないプロの室内混声合唱団として評価されている。

活動範囲も大阪を拠点に、東京、神戸、西宮で、定期的に演奏会を催し、'99年にはヨーロッパ(アムステルダム、バルセロナ)公演で大好評を得た。

音楽ジャーナリストの梅津時比古氏は、「The TARO Singers は、今まさに私たちが欲している合唱団だと言っている。ヨーロッパの伝統と、近・現代の音楽性の要求と、そして社会性の三つに対応している点において、この合唱団の響きは安らぎを与えてくれると同時に、現代への問いかけを失わないのである。」と絶賛。

- 1995年 第一回定期演奏会 3Bのモテット
- 1999年 ヨーロッパ(アムステルダム、バルセロナ)で公演
★大阪文化祭 本賞受賞
- 2000年 文化庁芸術祭参加 第2回東京定期演奏会「ア・カペラによる20世紀の祈り」
CDデビュー「聖母マリアを讃えるうた」
レコード芸術、毎日新聞、ハーモニーなどで特選盤として紹介され絶賛される
- 2001年 CD第2弾「ア・カペラによる20世紀の祈り」
レコード芸術、毎日新聞、朝日新聞、ハーモニーなどで特選盤として紹介され絶賛される
★松方ホール音楽賞 選考委員奨励賞受賞
★青山財団バロックガール賞受賞
- 2003年 CD第3弾「イギリス合唱音楽の軌跡」
レコード芸術準特選盤、CDジャーナル10月号で絶賛される
文化庁芸術祭参加 第10回定期演奏会「ブーランクの世界」
- 2005年 文化庁芸術祭参加 第12回定期演奏会「ドイツ合唱音楽の響き Part II」
- 2006年 文化庁芸術祭参加 第13回定期演奏会「20世紀に歌う・平和への希求」
CD第4弾「武満徹『Songs うた』」レコード芸術準特選盤、現代音楽、CDジャーナル、読売新聞等で絶賛される
- 2008年 文化庁芸術祭参加 第15回定期演奏会「主よなにとぞ…」
★芸術祭優秀賞 受賞
- 2010年 第17回定期演奏会F.シューベルト「冬の旅」
★大阪文化祭賞 受賞
- 2011年 2月、CDシューベルト「冬の旅」オクタヴィア・レコードよりリリース
ハーモニーで特選盤・音楽現代で推薦盤として紹介される
5月、CD「日本の歌」をリリース
文化庁芸術祭参加 第18回定期演奏会「神の榮・聖母の愛」
そのほか、NHK-FM「名曲リサイタル」、NHK教育テレビ「地球名曲コンサート」に出演、
「世界のコーラス」、NHK-BS II「クラシック倶楽部」などでたびたび放送される
- 2012年 第19回定期演奏会 シューベルト「水車屋の美しい娘」
- 2013年 3月、CDシューベルト「水車屋の美しい娘」オクタヴィア・レコードよりリリース
中田喜直 作品「霧と話した」パナムジカより出版

今後の予定

2013年

- 10月14日(月・祝)／東京文化会館小ホール
第15回東京定期演奏会「運命・自由・そして神」

2014年

- 1月5日(日)14:00／兵庫県立芸術文化センターKOBELCO大ホール
「ニューイヤール・コンサート」

お問い合わせ ● タロー事務局 Tel/Fax.0797-34-0128

タローホームページ ● <http://homepage3.nifty.com/tarosingers>



●Members

指揮 里井宏次
 ソプラノ 秋田美喜子 大岡美佐 北爪かおり 田中希美 長田麻衣子 柚木たまみ
 アルト 嶋本真祐子 椿本実加 西野夏子 西畑賀世 *廣澤敦子 船元泰子
 テノール 今西章 岡本雄一 角地正範 梶原道人 越野保宏 中井英文 橋上純二
 バス 笠原直也 嶋本晃 二階堂哲雄 野崎恭輔 林康宏 前原克彦 山本明

*コンサート・ミストレス



conductor 里井宏次 Hiroshi Sato

大阪音楽大学大学院オペラ科修了。テノール歌手としてオペラ、リサイタル、コンサートに数多く出演。現在は合唱指揮者として活躍する。

自ら主宰する「ザ・タローシンガーズ」では1999年・2010年大阪文化祭本賞・2008年文化庁芸術祭優秀賞など受賞歴多数。

また、合唱講習会の講師やコンクールの審査員として合唱音楽の普及に努め、多くの合唱団でも指導、指揮を行っている。

現在、大阪音楽大学教授、イタリア歌曲研究会、日本合唱指揮者協会会員。

お問い合わせは タロー事務局・タローホームページ

聖母マリアを讃えるうた



¥2,625

ア・カペラによる
20世紀の祈り



¥2,625

イギリス合唱音楽の軌跡



¥2,625

武満徹「Songs うた」



¥2,100

シューベルト「冬の旅」



¥2,800

タローシンガーズ日本の歌
上を向いて歩こう



¥2,500

シューベルト
『水車屋の美しい娘』



¥2,800

